

研究実施計画書

魚津市立図書館利用者における ACP（アドバンス・ケア・プランニング）・緩和ケア に関する認識調査

1. 背景及び研究実施の意義・必要性

富山県がん診療連携協議会相談支援部会の広報活動の取り組みの一環として、平成 30 年度（2018 年度）より魚津市立図書館で地域住民に対してがん相談支援センターの紹介・がん予防・緩和ケア・在宅療養支援に関する情報提供を行ってきた。今年度は、近年重要性が認識され、関心が集まっている ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を取り上げる。2018 年厚生労働省が公表した「人生の最終段階における医療に関する意識調査」からも一般国民の 75.5%が知らないと回答している。本研究では、魚津市立図書館を利用する地域住民を対象として、ACP・緩和ケアに関する認識状況を調査し、今後の啓蒙活動、ACP の普及活動の取り組みに対する課題を明らかにする。

2. 研究の目的

魚津市立図書館を利用する地域住民を対象とし、ACP・緩和ケアに関する認識を調査することを目的とする。

3. 研究の評価項目

ACP・緩和ケアに関する認識

- 1) 人生会議またはアドバンスケアプランニング（ACP）について知っていますか？
- 2) 「もしものとき」を踏まえて、ご家族との話し合いの機会がありますか？
- 3) もしあなたが「がん」にかかったとしたら、その事実を知りたいですか？
- 4) もしあなたの家族が「がん」にかかったとしたら、その事実を知らせますか？
- 5) 「緩和ケア」について知っていますか？
- 6) もしあなたががんで余命 1～2 か月と限られているようになったとしたら、自宅で最期を過ごしたいと思いませんか？
- 7) 「治る見込みがない病気で余命が限られているのなら、自宅で最期を過ごしたい」という意見がありますが、そのためにはどんな条件が必要だと思いませんか？

4. 研究計画・研究デザイン

実態調査研究

対象：魚津市立図書館の利用者 50 名程度

研究方法：年代ごとに色分けしたシールを準備し、模造紙を用い ACP・緩和ケアに関する質問に対して、一人9枚とし、7つの質問に対してシールを貼り回答してもらう。回答がないものは、無回答として集計する。調査の結果については、次年度、図書館で展示し、公表することとする。また、考察・今後の課題を検討し、日本緩和医療学会など関連学会での発表を行う予定である。

	男性	女性
20 歳代以下	黒	白
30 歳代	濃ピンク	薄ピンク
40 歳代	オレンジ	黄
50 歳代	赤	茶
60 歳代	青	紫
70 歳代	きみどり	緑
80 歳代以上	金	銀

5. 研究における倫理的配慮

対象者に対しては、参加の自由、匿名性、不利益が生じないこと、調査データをまとめ学会発表を予定していることを紙面に明記し、質問への回答をもって研究の同意とみなす。問い合わせ先については、担当者であるがん相談支援センターの連絡先を明記する。

6. 研究期間

調査期間：2022年2月22日から3月22日まで

研究期間：2021年12月～2022年12年

7. 研究実施者および連絡先

研究代表者：

富山労災病院 がん相談支援センター がん相談員 看護部 原 直子

分担研究者（代表）：

富山労災病院 がん診療機能向上委員会 角谷 直孝